

裾野市史

第五卷

資料編

近現代 II

題字 前裾野市長 市川 武



昭和初期 佐野村と富士(木版色摺)

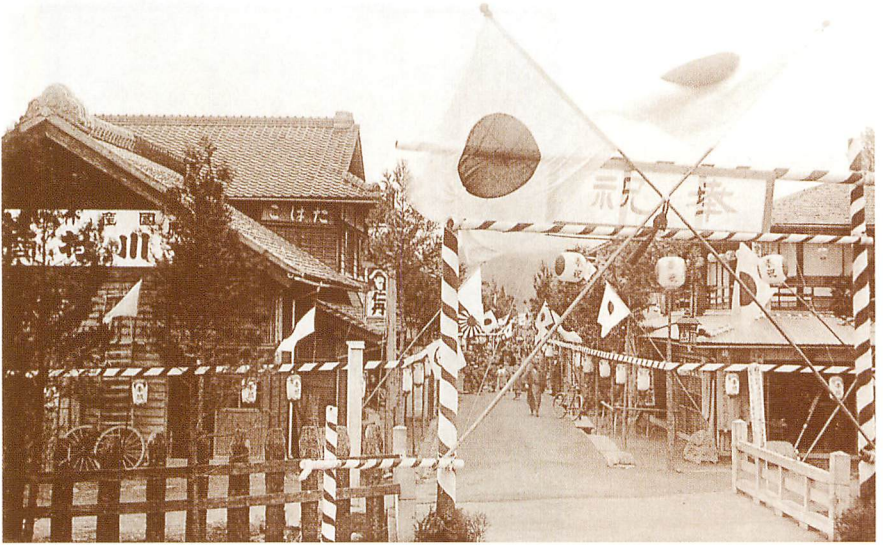
長谷川 博氏所蔵



昭和42年5月 御殿場線(岩波駅のスイッチバック) 大川 勉氏所蔵

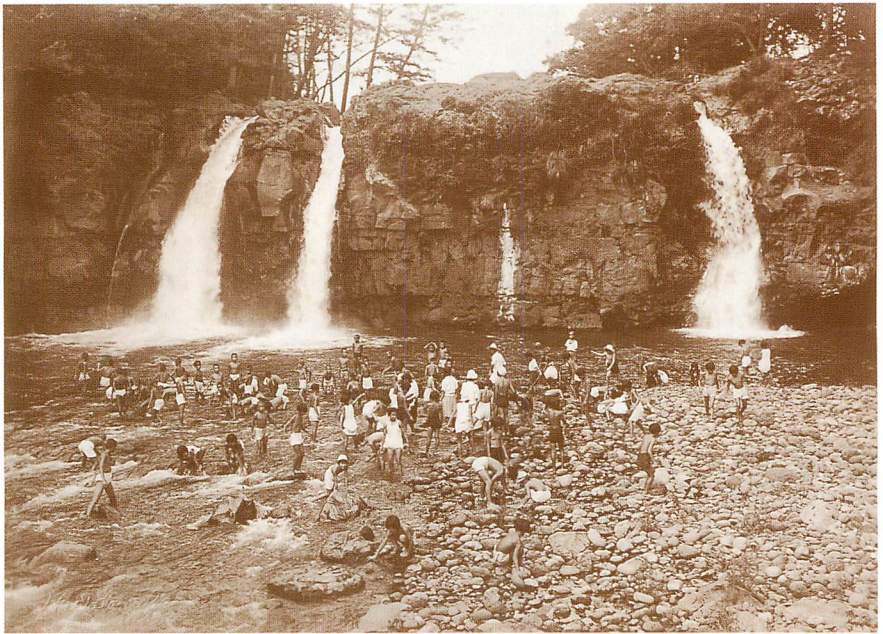


昭和42年5月 御殿場線(深良上丹) 大川 勉氏所蔵



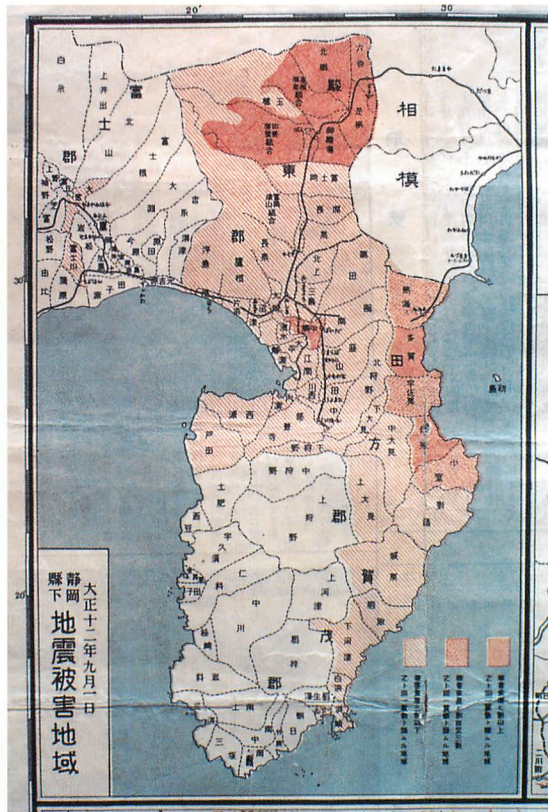
裾野駅より市中を望む

勝又茂美氏所蔵



昭和16年 林間学校(五竜の滝水泳風景)

渡邊一徳氏所蔵



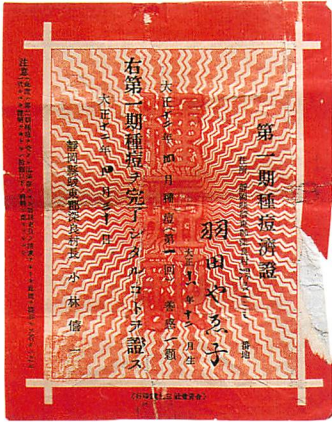
大正 12 年 9 月 地震被害地図 渡邊公一氏所蔵



大正 12 年 9 月 震災関係書類
富岡支所所蔵



大正 12 年 9 月 汽車転覆 大庭晴彦氏所蔵



大正12年4月 種痘
羽田 勲氏所藏



大正12年3月 小泉小学校卒業記念写真帖 勝又茂美氏所藏



原敬直筆扇 土屋良雄氏所藏



大正15年3月 深良村消防組

旧家のモダニズム



タバコ・ケース



SPレコード



タバコ・ケース



タバコ・ケース



タバコ・ケース



旅行カバン



昭和13年『夏休み友』 横山正美氏所蔵

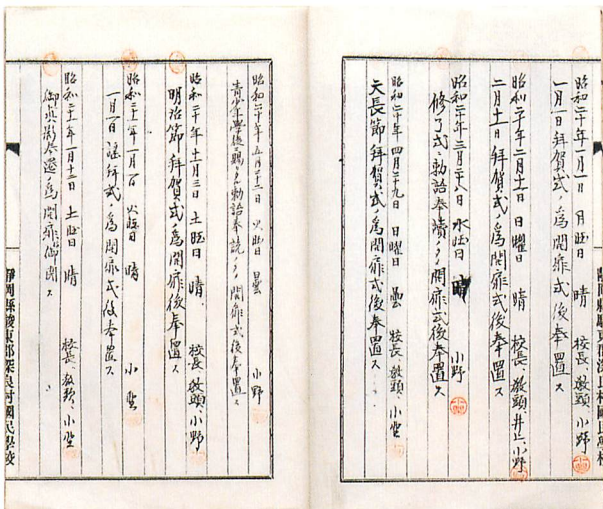


学校での教練 市川一宏氏所蔵



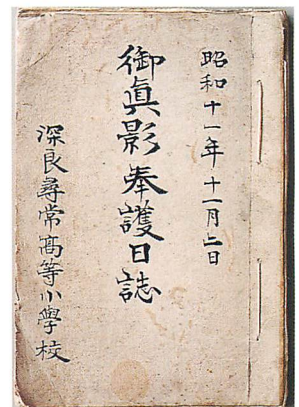
昭和18年3月 滿蒙開拓青少年義勇軍

富岡第一小学校所蔵



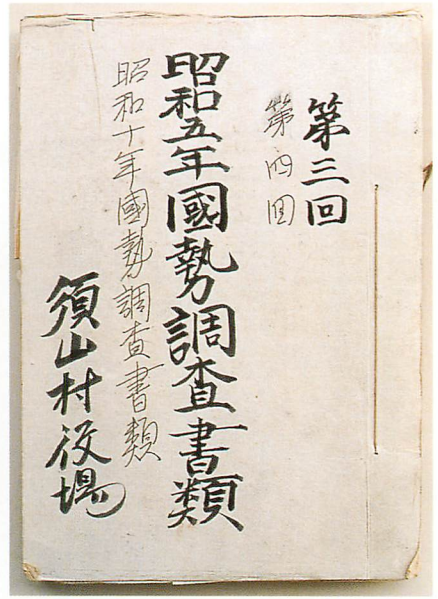
昭和11年11月 御眞影奉護日誌

深良小学校所蔵





大正9年 国勢調査記念章
小見山尚武氏所蔵



国勢調査書類 須山支所所蔵



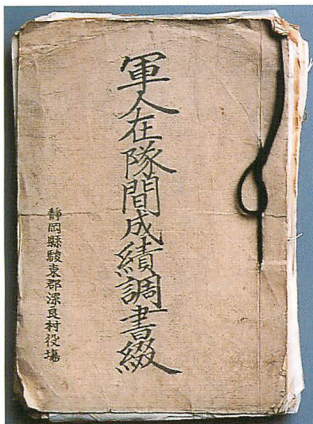
納税袋 深良支所所蔵



昭和5年 国勢調査記念「火鉢」
小見山尚武氏所蔵



金属回収のポスター 裾野市役所所蔵



軍人在隊間成績調査綴 深良支所所蔵



「支那事变国債」 須山支所所蔵



昭和 14 年 出征風景 柏木輝雄氏所蔵



昭和 20 年 出征風景 柏木輝雄氏所蔵



昭和19年 学童疎開(羽田小学校)

伊東タツ子氏所蔵



昭和28年2月 忠魂碑(深良上原)



平成6年8月 学童疎開記念樹(定輪寺)

開放農地の登記

はすみましたが



去年残ったものは
必ず本年三月末までに

貴方は登記済証を受取りましたか？
登記が終らなると貴方の自作地を第三者に對抗出来ません。
登記事務は皆様を代り農地委員会にて必要な書類を作り登記所に提出します。
登記所へ登記が完了すれば農地委員会を通じて皆様に登記済証をお渡します。
みんなで農地委員会に協力して早く登記事務を終りましょう。

農林省
法務府

1950. I



昭和23年12月 感謝状
持田利泰氏所蔵

昭和22年 農地改革ポスター 三島市郷土資料館所蔵



昭和28年 田植えの風景(馬)



昭和30年 竹細工の盛んな頃



昭和29年 バイスケ



昭和34年 農業近代化



昭和29年 遊びから帰る子どもたち



昭和32年 遊ぶ子どもたち



昭和31年 11人の十里木分校



昭和35年 『若人』(裾野町深良青年団機関誌)

深良支所所蔵



昭和34年 裾野駅前の風景



東名高速道路(御宿入谷)

今日の
裾野



東富士演習場



企業誘致

発刊のことば

裾野市長 大橋 俊二



平成三年の資料編「深良用水」発刊以来、市史編さん事業は、市民の皆様方の温かい御支援と関係各位の御努力を賜り、今までに資料編「考古」「近現代Ⅰ」「古代・中世」「近世」「民俗」と刊行してまいりました。

今回は資料編「近現代Ⅱ」を刊行いたしますが、これで資料編七巻がすべて刊行の運びとなりました。

本書は、資料編「近現代Ⅰ」に引き続き、大正二年（一九一三）から昭和四七年（一九七二）までの資料を収録しています。

この時代は第一次世界大戦から第二次世界大戦、終戦、そして戦後復興から高度経済成長へと激動の時であり、特に大正期を過ぎ、昭和恐慌から日中戦争、太平洋戦争へといたる時期は、過酷な生活を余

儀なくされました。

また、終戦後は農地改革や町村合併などにより、生活環境にも大きな変化が生まれました。

本書ではこれらのことについて、政治・行政、産業・経済、社会、教育・文化の観点からの資料や新聞記事によって知ることができるようになっています。

昭和史での最大の事件を経て、市域は村から町へ、町から市へと変遷し、大きく飛躍をしまいいりましたが、さらに今日の社会環境は目まぐるしく変動しています。

このような状況下において二十一世紀を迎えるにあたっては、市民生活をより豊かに、そして安定させていくことが重要であり、その為にも郷土の歴史を正しく理解することが大切です。

資料編の完結により、考古から近現代までの資料を通して見ることができまことは大変意義深いこととであり、これらの市史が多くの方々にも親しまれ、各方面で広く活用されますとともに、裾野市の歴史研究がより一層向上し、郷土への理解と愛着が深まることを願うものであります。

また、今後は通史編の刊行が予定されていますのでご期待していただきたいと思います。

結びにあたり、貴重な資料の提供をはじめ、様々な御協力を賜りました多くの皆様方や、関係機関および調査・執筆・編集にあたられました委員の先生方に、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

刊行によせて

裾野市史編さん専門委員 四方 一 洙

『裾野市史 第五卷 資料編 近現代Ⅱ』が刊行されることとなった。『近現代Ⅰ』は明治期を対象としたが、『近現代Ⅱ』はそれにつづく大正・昭和期の裾野市域の史料を収録するものである。明治期は、幕末維新期の動乱を経て、鎖国から開国へと日本の政治・経済から社会・文化とわが国有史以来の大きな変貌をとげた。裾野地域も当然のことながらその社会的な変動から無縁ではなかった。

近世から近代への大変革は裾野市域における行政の在り方や産業構造や社会のしくみ、さらには交通体系、あるいは教育や文化にかつてない変容をもたらすこととなった。それは紛れもない事実である。だが沼津や北駿の狭間にあつて閉鎖的・自己完結的な地域構造は基本的な生産構造や村落構造、あるいは住民の意識は前近代的、近世的残滓を色濃く残し、それを引き継いでいたことも否定できない。第五巻が対象とする『近現代Ⅱ』にも長くそれは影をおとし、またそれゆえに裾野市域のアイデンティティを保持し、中駿の要としての固有の政治・経済・文化を開花させてきた。

だが、第五巻に所収された時期区分に相当する裾野市域はそのような地域性や伝統の保持、継承のみではなかった。ある意味において幕末維新期の変貌以上の変革がおこなわれ、もしくは裾野市域の歴史にかつてない地殻変動をもたらしたといっても過言ではあるまい。

この変貌の要因がわが国、ひいては国際社会など世界の進運に基づくものであることは言うまでもない。この時期において、裾野市域は、箱根・愛鷹の山系に挟まれ、黄瀬川流域にある、あるいは富士山東麓に位置した一地域としてではなく、全世界的・地球的な規模での動きのなかに、好むと好まざるとにかかわらずその位置づけを明確にさせられていった時期であり、時代であった。それは部分的な影響あるいは変革というものではなく、社会の仕組みや住民の意識をも根底から変革する包括的な地殻構造の変動であった。

もちろんこのような変革は裾野市域に限られた特殊な現象ではなく、わが国全体の変革の一環であることはいうまでもないが、裾野市域においては近世から近代への変革がとりわけ顕著なものではなかっただけに、変動は裾野市域の全面にわたって、未曾有の根底的な変革を喚び起こすものとなったといえよう。

富士・箱根・愛鷹の峰々にとざされた黄瀬川流域の村々は、江戸時代からの村落共同体によって形成していた村々の伝統や、南北に長い地域性、生産力や生活意識の相違など村々相互の利害関係によって必ずしも統一性・協調関係が保たれていたとはいえないが、大きく変わる社会のなかで地域住民は相互

の利害を乗り越えて、小我を捨てて大同にたち裾野町へ、さらには裾野市を実現させることとなった。

この間、一部特権階級の占有物であった選挙権は大正デモクラシーをうけて普通選挙制度の実現となり成人男子すべてに付与され、やがて戦後の民主社会への展開のなかで男女同権の選挙制度が実現するとともに、裾野市域の住民もかつての地主・小作の階層的桎梏から小作争議の苦闘を経て政治的平等を獲得した。学校教育体系の本道から疎外されていた勤労青少年も曲がりなりに公民学校・青年訓練所さらには青年学校へと教育の機会を享受することとなり、さらに佐野実業学校、戦後新教育の発足にともない曲折を経ながらも裾野高校を設置し、また新制中学の設立とあいまって地域社会のなかでの中等教育が実現され、広く中等教育を受ける機会を実現した。また竹パイプを中心とする地域の主産業も竹の枯死という事態に直面し、ようやく近代的生産様式を獲得した企業家たちは暗澹たる苦難の末に裾野地域の枠を抜け出して日本の視野のなかで流通の道に活路を開いた。

裾野市域は地域住民の時代の変化を目敏く把える英知と富士の火山灰土のなかで培われた向上への実践力によって一步一步着実に自らの地域社会の育成、発展に努めてきた。

しかしその道は坦々たるものではなかった。十五年戦争は人々の生命も財産も、人間関係も犠牲にしなければならなかったし、被占領下の演習地による生活権の抑圧は、独立後に至っても全く解消したわけではない。大企業の進出は裾野の景観と生活意識を一変させ、住民の生活と文化の向上が期待されている。一方公害への杞憂が払拭されているわけではなく、また交通問題は交通戦争として市民の生活を

脅かしている。

本巻はまさしくこのような裾野市の有史以来の変革・変貌の時期の史料を問題史的に配列、掲載したものである。裾野地域の先人や同世代の人々が多くの苦難を克服してきた営為を顧みるとともに今日に住む私たちが何を為すべきか、指針を得て戴ければ幸甚である。

平成十一年一月

『裾野市史 資料編近現代Ⅱ』の刊行にあたって

裾野市史編さん専門委員 安田 常雄

この度、刊行される『裾野市史 資料編近現代Ⅱ』は、「資料編近現代」の二冊目として、ほぼ第一次世界大戦期（一九一四—一九一九年）から始まり、満州事変以後の戦争の時代をへて、戦後の占領から高度経済成長期にいたる、文字通り激動の時代の記録である。すでに一九九三（平成五）年に刊行された『裾野市史 資料編近現代Ⅰ』が、その対象を（明治）という時代に焦点をしぼり、日本における近代社会の形成とそのなかでの裾野地域の人々の暮らしを描きだす試みであったとすれば、今回の「資料編近現代Ⅱ」は、大正期以後、そのなかに含まれたさまざまな矛盾が噴出し、ついに戦争にだれこみ、またその敗戦の廃墟の中から復興をめざし、いわゆる高度経済成長を実現した歴史である。さらに「経済大國」という光の影に、どのような問題をはらんで現在に至っているかの歴史ということも出来る。そしてそれは何よりも、こうした大きな社会の歴史的変動のなかで、この裾野地域の人々が何を考え、どのように行動し、いかなる結果を生み出していったかという民衆の歴史でもある。その意味でそれは、い

わばこの地域に生きた人々の自画像であり、そこに投影された一人ひとりの「いま」を逆に照らしだす鏡といえよう。

この「資料編近現代Ⅱ」の編さん作業は、一九九四(平成六)年四月に開始された。すでに「資料編近現代Ⅰ」で記したように、今回もほとんど蓄積がない零からの出発であった。近現代担当委員(資料編近現代Ⅱ)という新しい時代に取り組むため、新たに二名の調査委員を補充した)のなかでは、まず目次構成案の作成にはじまり、これを手がかりにしながら多様な調査が進められた。裾野地域の旧家に残る個人文書、裾野市役所(本庁)に所蔵されている各部署の「行政文書」や議会事務局関係文書、また深良・富岡・須山支所所蔵の「支所文書」、さらに石脇・佐野・御宿・葛山・今里に加え、水窪・富沢・上町・元町・緑町・二本松・遠道原・二ツ屋などの「区有文書」につき、カードをとり、次々にコンピュータに入れて目録を作成していった。またこうした広義の行政文書以外に、東中・富岡中・深良中・須山中さらに東小・西小などの学校関係資料の調査、そして新聞資料(静岡新報・岳麓新聞・富士タイムズなど)からの裾野関係記事の洗い出しなども並行して行なわれた。

こうした数年にわたる作業の結果は、「行政関係目録」と「新聞関係目録」という二つの膨大な量にのぼる目録として集約され、これを元に、以後第一次から第五次にわたる選択作業が行なわれた。こうして一九九七年冬には、ほぼ目次構成案にそった資料選択が終了し、さらに分量調整などをへて、最終的に六三九点(「資料編近現代Ⅰ」からの通しナンバーで、一二五九点)の資料が厳選された。

いま振り返ってみれば、「資料編近現代Ⅰ」の作業を開始したが、一九九一年四月であるから、七年あまりの歳月が飛び去ったことになる。この間、私たちの住む世界では「バブル崩壊」を起点に経済不況の波は年毎に深刻さを増し、阪神淡路大震災やオウム事件に象徴される社会的「不安」の気流が私たちをおおっている。また、かつて自明であった「戦後」の政治・経済・社会のシステムが大きく揺らぎ、あらゆる場所でその再編成が模索されている。そしてこの時代の深い振動は、職場や家庭や子どもたちのありかたをゆさぶり、私たち一人ひとりの暮らしや意識や感受性の底にまで及んでいるのである。

もし、歴史がこうした転形期に何がしかの意味をもつとすれば、それは、いま直面する「危機」の根もとを冷静にたどりなおし、いまの暮らしと感受性の底に、いくつもの暮らしや感受性の形があったことを探りあて、その場所から、あらためて今の私たち一人ひとりの生きかたを考え直すための、一つの有力な手がかりをあたえるからではないか。そこから、一人の個人を越えた、裾野という地域のありかたを再考し、それを通して、現代世界への眼も開けてくるのではないか。この資料集が、そうした歴史認識への小さな一歩になればと願っている。

最後に、本書刊行まで長い年月にわたる多くのの方々のお援助、御協力に対し、深く御礼を申しあげたい。

平成十一年一月

凡 例

- 一 本資料編は、大正から昭和四十六年の市制施行までを対象に、資料六三九点を収録した。
- 一 本書は四章から構成され、資料には検索上の便宜を計るため、近現代 I からの通し番号を付した。
- 一 字体は原則として常用漢字を用い、異体字は正字に改めた。但し、常用漢字にない字や固有名詞は原資料のままとした。
- 一 資料は原則として、原資料の体裁を生かしたが、原資料が横組みのものは、縦書きにし、体裁を統一した。
- 一 助詞等に慣用的に使われる者・江・与・茂・ニ而・而已・ガ・メ・フ・ク・ヒおよび変体仮名は、資料の字体にあわせて平仮名・片仮名に改めた。
- 一 誤字・脱字などの補正および、推測可能な文字は(カ)、文意不詳のものは(ママ)と右傍に注記した。
- 一 判読不可能な箇所は□(一字分) □□(二字分) □□□(字数不明)のように示し、虫損・汚損などによるものは(虫損)(汚損)(破損)などと右傍に注記した。またプライバシーを配慮した箇所も同様の扱いとし、(人名)(番地)と右傍に注記した。

凡 例

- 一 敬語のための闕字は原資料のままとした。

一 文中に押されている印は、実際に押されている場合は④(私印)・㊦(公印)とし、写しの場合は印(私印)・㊧(公印)とした。

一 資料を読み易くするため、適宜に読点(、)句点(。)並列点(・)を付した。

一 繰り返し記号として、漢字一字は「々」、二字は「〳〵」、平仮名は「ゝゝ」、片仮名は「ヽヽ」を用いた。

一 資料に後筆・欄外・朱筆などがある場合は「」を付し、右傍に注記した。

一 冊子の表紙は□で囲み、右傍に(表紙)と注記した。

一 資料の一部を抄録した場合は、その部分に(前略)・(中略)・(後略)と付した。

一 収録資料には、各資料の末尾に地区、所蔵者名、出典を明記した。

一 綴名がないものは、内容に沿って適宜綴名をつけ()を付した。

一 資料中難解な文字については、適宜ふりがなをふり、また原資料に元から付してあるルビには右傍に・・を付した。

一 収録資料の中には、差別的な用語が使用されている場合がある。もとより、こうした不当な差別を容認するものではなく、差別根絶の立場からその史実を認識する意味で、そのまま掲載した。

近現代Ⅱ 総目次

近現代Ⅱ 総目次

	口		
	絵		
	発刊のことば	裾野市長	大橋俊二
	刊行によせて	裾野市史編さん専門委員	四方一洙
	『裾野市史 資料編近現代Ⅱ』の刊行にあたって	裾野市史編さん専門委員	安田常雄
凡	例		二
資料	目次		一九
口	絵		三
統計	図版目次		三
第四章	第一次大戦後の裾野		
第一節	暮らしの風景		六
第二節	関東大震災と裾野 Topics IV		六

第三節 地域経済の展開と地主制・米騒動	二七
(1) 農産業の発展と地主制、米騒動への対応	二七
(2) 部落有林野統一と泉村騒擾事件	二四
第四節 大正デモクラシー下の教育	二六
(1) 初等教育の革新と中等教育の拡充	二六
(2) 社会教育と農村青年共働学校	二八
第五節 大正デモクラシー期の地域政治	二九
(1) 村政の動向と自治	二九
(2) 民力涵養と村	三三
第六節 村と戦争	三六
第五章 十五年戦争と裾野のひとびと	
第一節 暮らしの風景	三五
第二節 昭和恐慌から地域戦時経済へ	三三
(1) 昭和恐慌と裾野の経済	三三
(2) 小作争議と自作農創設政策	三六

(3) 地域経済の戦時編成	三五
第三節 「皇国民」教育への道	三七
(1) 不況から戦争への教育	三七
(2) 戦時下の青少年団活動	三九
第四節 綴り方教育 Topics V	四八
第五節 戦争と寺社	四六
第六節 地域にとっての翼賛体制	四一
(1) 戦争にむかう地域政治	四一
(2) 地域にとっての翼賛体制	四六
第七節 村と戦争	四七
第六章 占領のなかの民主化	
第一節 暮らしの風景	五九
第二節 農地改革と地域経済の民主化	五九
第三節 戦後教育の発	五八
(1) 新教育へ向けて	五八

(2) 社会教育の展開と文化活動	六七
第四節 戦後改革期の裾野の政治	六四
第五節 村と戦争Ⅱ 占領と裾野	六〇
(1) 米軍の進駐と演習場	六〇
(2) 演習場問題をめぐる運動の展開	六四
第七章 戦後復興から高度経済成長へ	
第一節 暮らしの風景	六九
第二節 工場誘致と企業の進出 Topics VI	七三
第三節 地域経済の展開と社会	七二
第四節 戦後教育の屈折と変容	七三
(1) 社会の変容と学校教育	七三
(2) 社会教育の振興と青年団活動	七七
第五節 地域政治・行政と町村合併	八三
(1) 町村合併の展開	八三
(2) 高度経済成長期の裾野の政治	八五

第六節 基地問題のゆくえ―村と戦争 Topics VII	八二
第七節 村の戦後処理と「戦争の記憶」	九三
統計図版	九二
解 説	九五
あとがき	一〇一
裾野市史編さん関係者	一〇三

近現代Ⅱ 資料目次

第四章 第一次大戦後の裾野

第一節 暮らしの風景

三三	大正 八年(一九一九)	一月 一日	裾野駅発客車時刻表 ……………	六
三三	大正 八年(一九一九)	二月	深良村消防組勤務日記簿 ……………	六
三三	大正 八年(一九一九)	一〇月 二日	県下の伝染病、昨年よりはるかに増加 ……………	七
三四	大正 九年(一九二〇)	六月 八日	「時」の記念日挙行に関する件 ……………	七
三五	大正 九年(一九二〇)	七月 五日	コレラ予防について ……………	七
三六	大正 九年(一九二〇)	九月二五日	国勢調査に関する示達 ……………	七
三七	大正 九年(一九二〇)		須山村国勢調査宣伝 ……………	七
三八	大正一〇年(一九二一)	二月一六日	富岡村婦人消防隊の結成 ……………	七
三九	大正一〇年(一九二一)	七月 六日	小泉義勇警察団(一) ……………	七
四〇	大正一〇年(一九二一)	八月一九日	小泉義勇警察団(二) ……………	七
四一	大正一一年(一九二二)	一月三一日	「幸運来ル」のハガキ取締に関する件 ……………	七

六三三	大正一一年(一九二二)	三月一七日	大正の節婦―病父を擁す二〇年	頁
六三三	大正一一年(一九二二)	七月一六日	節婦表彰さる―一家再興に粉身す	七
六三四	大正一一年(一九二二)		伝染病隔離舎沿革	七
六三五	大正一二年(一九二三)	二月五日	深良村窮民救助規程	七
六三六	大正一三年(一九二四)	六月二四日	対米問題に関する件	七
六三七	大正一三年(一九二四)		裾野地域消防団及び役員一覧	八
六三六	大正一四年(一九二五)	一月一五日	竹細工の映画「村の栄光」封切	八
六三九	大正一四年(一九二五)	四月二〇日	メートル法実行奨励に関する件報告	八
六四〇	昭和二年(一九二七)	四月二九日	ブラジルへ渡って養蚕経営に成功	八
六四一	昭和二年(一九二七)		富岡村巡回産婆設置規程	三
六四三	昭和三年(一九二八)	四月六日	一〇家族四五名、ブラジルへ移民	四
六四三	昭和三年(一九二八)	一〇月二三日	御大典に関する奉祝方法の件	五
第二節 関東大震災と裾野 Topics IV				
六四四	大正一二年(一九二三)	九月	関東大震災について	六
六四四	大正一二年(一九二三)	九月三日	朝鮮人警戒方件	六
六四四	大正一二年(一九二三)	九月四日	震災余波報告の件	六
六四七	大正一二年(一九二三)	九月七日	拳銃・刀剣所持禁止	六

六四	大正十二年(一九二三)	九月 七日	朝鮮人警戒の件	………	六
六四	大正十二年(一九二三)	九月 八日	須山尋常高等小学校授業休業御届	………	六
六五〇	大正十二年(一九二三)	九月一〇日	震災における流言について	………	六
六五一	大正十二年(一九二三)	九月一日	静岡県案内所取扱書信に関する件	………	六〇
六五三	大正十二年(一九二三)	九月一四日	林野被害報告(富岡村)	………	六二
六五三	大正十二年(一九二三)	九月一四日	震災に関し労力奉仕の件通牒	………	六二
六五四	大正十二年(一九二三)	九月一七日	戒厳地立入の件	………	六三
六五五	大正十二年(一九二三)	九月一八日	朝鮮学生救護の件	………	六四
六五五	大正十二年(一九二三)	九月二〇日	奉仕的事業出勤報告	………	六四
六五七	大正十二年(一九二三)	九月二三日	地方労働者上京阻止に関する件	………	六五
六五七	大正十二年(一九二三)	九月二三日	震災被害者追悼会案内状	………	六五
六五八	大正十二年(一九二三)	九月二三日	道路修繕奉仕出勤方の件通牒	………	六五
六五九	大正十二年(一九二三)	九月二三日	東上者阻止に関する件	………	六六
六六〇	大正十二年(一九二三)	一〇月 一日	失業救済に関する件	………	六六
六六一	大正十二年(一九二三)	一〇月 一日	甘粕大尉減刑歎願に関する賛同依頼	………	六九
六六三	大正十二年(一九二三)	一〇月 二日	軍隊出勤並自警団に関し調査の件	………	七〇
六六四	大正十二年(一九二三)	一〇月 五日	震災復旧事業低利資金について	………	七二

六五	大正二年(一九二三)	一〇月一八日	震災被害実態報告(須山村)	………	一〇一
六六	大正二年(一九二三)	一〇月二四日	震災の副業に及ぼしたる影響調の件	………	一〇三
六七	大正二年(一九二三)	一月一七日	震災の経済上に及ぼしたる影響調査	………	一〇四
六八	大正二年(一九二三)	一月一九日	お祭りやお日待に餅まきをやること	………	一〇五
六九	大正二年(一九二三)		震災日誌	………	一〇六
七〇	大正二年(一九二四)	四月一五日	富岡村震災損害状況報告	………	一一〇
七一	大正二年(一九二四)	四月二四日	震災義捐金配分に関する件	………	一一二
七二	大正二年(一九二四)	五月二六日	富岡村震災復興資金設置規程	………	一一四
七三	大正二年(一九二四)	八月三〇日	震災記念日に関する件付通牒	………	一一五
七四	大正二年(一九二三)		震災横死之碑	………	一一六
<p>第三節 地域経済の展開と地主制・米騒動</p>					
<p>(1) 農産業の発展と地主制、米騒動への対応</p>					
<p>① 農産業の発展</p>					
六五	大正二年(一九一三)	四月一七日	芹沢銀行の好況	………	一一七
六六	大正五年(一九一六)	三月一日	パイプ製法御下問	………	一二七
六七	大正五年(一九一六)	五月	深良村農会々則	………	一二八
六八	大正九年(一九二〇)	四月 六日	トラクター使用試験參觀希望の案内及び郡農事研究会	………	

六七九	大正一五年(一九二六)	四月一五日	村境界変更につき諮問	………	二三
六八〇	昭和四年(一九二九)	二月	小泉村農会購買販売斡旋業務等の細則	………	二四
六八一	昭和一〇年(一九三五)	推定	株式会社福島竹パイプ製造所定款	………	二六
②地主制の展開					
六八二	大正二年(一九一三)	四月九日	本県地主大会	………	二七
六八三	大正三年(一九一四)		地租軽減の議に付陳情	………	二八
六八四	大正三年(一九一四)	一月二〇日	小作證	………	二三
六八五	大正六年(一九一七)	一月六日	小作證文	………	二三
六八六	大正一二年(一九二三)	一月二六日	小作慣行調査(抄)	………	二三
六八七	大正一三年(一九二四)	一月六日	小作調停委員候補者の選定	………	三九
六八八	昭和二年(一九二七)	三月一八日	作地を平等に、小作人奔走	………	四〇
六八九	年月日不詳		取替為規約之証	………	四〇
③米騒動への対応					
六九〇	大正七年(一九一八)	六月一日	外米購入希望者調査	………	四二
六九一	大正七年(一九一八)	八月三日	所持米売惜みに関する通牒	………	四三
六九二	大正七年(一九一八)	八月一五日	恩賜金分配計画	………	四三
			の決議	………	三三

六三三	大正 七年(一九一八)	八月一六日	大至急外米購入注文取纏めの依頼	一四
六三六	大正 七年(一九一八)	八月二〇日	米廉売抑制の通牒	一四
六三九	大正 七年(一九一八)	八月二三日	騒擾に関する第二次報告	一四
六四一	大正 七年(一九一八)	八月二九日	米騒動に關し注意	一四
六四七	大正 七年(一九一八)	一〇月一五日	米騒動の余波、地主小作間の紛議に注意	一四
(2)部落有林野統一と泉村騒擾事件				
六六八	大正 五年(一九一六)	五月一五日	泉村部落有財産統一の協定書	一四
六九八	大正 五年(一九一六)	五、二二月	静岡新報にみる泉村騒擾事件	一四
七〇〇	大正一〇年(一九二一)	三月 九日	泉村財産統一問題和解の請書	一五
七〇二	大正一四年(一九二五)		茶畑大字山地保護規約	一五
七〇三	大正 六年(一九一七)	二月一四日	深良公有林野に關する施行細則	一五
七〇三	大正 六年(一九一七)	一月二二日	深良公有林野入会地申合規約	一五
七〇四	大正 七年(一九一八)	一月二一日	切久保・遠道原公有山分割規定	一五
七〇五	大正一一年(一九二二)	四月 一日	深良公有林野の貸付契約書・覚書	一六
七〇六	大正一一年(一九二二)	三月二二日	富岡村の御料地払下請願書	一六

第四節 大正デモクラシー下の教育

(1)初等教育の革新と中等教育の拡充

七〇	大正三年(一九一四)	九月	開戦による留意事項	一〇六
七〇	大正六年(一九一七)	二月二〇日	動的教育講習会開催	一〇七
七〇	大正九年(一九二〇)	七月二十九日	社頭教育について	一〇七
七〇	大正一〇年(一九二一)	一月二〇日	理科および体操科目の重視	一〇九
七二	大正一〇年(一九二一)	九月二一日	佐野農学校から佐野実業学校に変更	一七〇
七三	大正一〇年(一九二一)	一月	演習場の見学(小泉尋常小学校「校務日誌」より)	一七〇
七三	大正一一年(一九二二)	三月一七日	嶽南尋常小学校分教場設置に関する意見答申の件	一七二
七四	大正一四年(一九二五)	三月二六日	嶽南尋常小学校敷地に関する意見答申の件	一七三
七五	昭和二年(一九二七)	一月二七日	学校問題の富岡紛糾拡大	一七四
七六	昭和二年(一九二七)	二月一五日	臨時委員設置規程	一七五
七七	昭和四年(一九二九)	九月二二日	富岡校落成式	一七五
七八	大正一一年(一九二二)	九月二一日	寄付物件受領の件	一七六
七九	大正一二年(一九二三)	八月二日	深良村尋常高等小学校々舎建築及移転改築の件	一七六
七〇	大正一三年(一九二四)	一〇月二日	県立沼津中学校学級増加に対し寄付	一七七
七二	大正一四年(一九二五)	一月二九日	幼稚園設置	一七七
七三	昭和三年(一九二八)	二月二一日	特殊行為者申報	一七九
七三	昭和四年(一九二九)	二月	佐野実業学校の教育概況	一八〇

七四	昭和 六年(一九三一)		教育教授の郷土化について(須山・深良尋常高等小学校)……………	一八〇
七五	昭和 八年(一九三三)	八月二三日	私立小学校温情舎について……………	一八五
	(2)社会教育と農村青年共働学校			
七六	大正 九年(一九二〇)	八月二三日	青年会の事業(須山村)……………	一八六
七七	大正 九年(一九二〇)	一月二九日	青年団並に処女会の設置及び発達改善について……………	一八六
七八	大正一〇年(一九二一)	四月 七日	今里少年消防……………	一八七
七九	大正一〇年(一九二一)	七月一九日	公衆作法について……………	一八八
八〇	大正一一年(一九二二)	一月一四日	少年団発会式……………	一八九
八一	大正一一年(一九二二)	七月一三日	小泉村青年団決議……………	一九〇
八二	大正一一年(一九二二)	一〇月二四日	天長節祝日並に学制頒布記念の件……………	一九〇
八三	大正一四年(一九二五)		活動写真会開催……………	一九三
八四	大正一五年(一九二六)	二月 九日	建国祭に式・講演会開催のすすめ……………	一九三
八五	大正一五年(一九二六)	五月三一日	須山実業補習学校から須山公民学校に変更……………	一九四
八六	大正一五年(一九二六)	六月二三日	泉青年訓練所規程……………	一九六
八七	大正一五年(一九二六)		赤潮会日誌(抄)……………	一九六
八八	昭和 二年(一九二七)		富岡村社会教育委員設置規程……………	一九九

七〇	昭和 四年(一九二九)	赤潮会日誌(抄)	……………	二〇〇
七〇	昭和 二年(一九二七)	静岡に現れる新しい共働村	……………	二〇一
七〇	昭和 三年(一九二八)	農村青年共働学校主催の民衆文芸教育大講演会	……………	二〇二
七〇	昭和 五〇六年(一九三〇)～一九三二)	校務日誌(抄)	……………	二〇三
七〇	昭和 八年(一九三三)	『町の横断面』裾野(c)	……………	二〇三
七〇	年月日不詳	嶽南純真学園の略図と間取り	……………	二〇三
<p>第五節 大正デモクラシー期の地域政治</p>				
<p>(1)村政の動向と自治</p>				
七〇	大正 三年(一九一四)	富岡村三大字分離決議書・請願書控	……………	二〇六
七〇	大正 五年(一九一六)	泉村の諸団体	……………	二〇七
七〇	大正 六年(一九一七)	須山村村税等滞納調	……………	二〇八
七〇	大正 八年(一九一九)	一月一四日 学校職員・役場吏員への臨時手当支給決議	……………	二〇九
七〇	大正 九年(一九二〇)	須山村特別税段別割条例設定の稟請および許可指令	……………	二〇九
七〇	大正一〇年(一九二一)	富岡村村税滞納整理につき依頼	……………	二二二
七〇	大正一一年(一九二二)	二月 五日 泉村・小泉村の合併計画	……………	二二三
七〇	大正一一年(一九二二)	四月二九日 小泉村戸数割調査委員規程	……………	二二三
七〇	大正一三年(一九二四)	五月一九日 総選挙に関し在郷軍人会須山村分会の調査回報	……………	二二四

㉔	大正一四年(一九二五)	五月一日	富岡村分村請願書控	三五
㉕	大正一五年(一九二六)	四月	富岡村分村追請願書控	三七
㉖	昭和二年(一九二七)	一月～二月	戸数割課額をめぐる富岡村の紛糾	三三
㉗	昭和二年(一九二七)	二月二六日	深良村特別税戸数割条例	三四
㉘	昭和三年(一九二八)	三月 九日	第一回普通選挙に関する深良村調査回報	三五
(2)民力涵養と村				
㉙	大正八年(一九一九)	三月一日	民力涵養に関する通知	三七
㉚	大正一〇年(一九二一)		民力涵養実行要目	三九
㉛	大正一四年(一九二五)	一月 四日	勤儉奨励に関する件	三〇
㉜	大正一〇年(一九二一)		須山村第一期五ヶ年計画	三三
第六節 村と戦争				
㉝	大正三年(一九一四)	一〇月 五日	景況書(深良村)	三六
㉞	大正三年(一九一四)	一月 五日	大正三年戦役応召軍人優待に関する打合せ項	三七
㉟	大正四年(一九一五)	五月一九日	須山村軍事関係報告	三六
㊱	大正八年(一九一九)	四月一七日	演習場火入に関する件	四〇
㊲	大正八年(一九一九)	七月一三日	砲彈落下の件通報	四一
㊳	大正八年(一九一九)	七月二三日	御料地貸下地侵墾者取締に関する件	四一

七六	大正一〇年(一九二一)	五月二六日	駿東の徴兵 虎眼多し	二四二
七〇	大正一〇年(一九二一)	一二月二六日	陸軍演習場報償金各村別一覧表	二四三
七三	大正一〇年(一九二一)		大正一〇年特殊演習飛行機に対する公衆一般の注意	二四三
七三	大正一一年(一九二二)	一月 八日	富士演習場使用についての承諾書	二四四
七三	大正一一年(一九二二)	六月 二日	御料地借地料金据置についての上申	二四五
七四	大正一一年(一九二二)	六月一四日	御料地貸付其の他料金更新に関する件通牒	二四六
七五	大正一一年(一九二二)	八月 五日	陸軍用地拝借願及び請書	二四八
七六	大正一一年(一九二二)	一月 三日	本年度壮丁の花柳病と虎眼数	二五一
七七	大正一一年(一九二二)		大野原演習地下草料金共有地開墾料金徴収簿	二五三
七六	大正一三年(一九二四)	六月一九日	在郷軍人分会景況調査表	二五三
七九	大正一四年(一九二五)	八月二一日	大正一四年度壮丁教育成績調査書(駿東郡)	二五四
八〇	大正一五年(一九二六)	一二月	御料地侵墾追認の儀許可願	二五五
八一	昭和 三年(一九二八)	五月一〇日	第三師団動員下令による召集兵の件(山東出兵)	二五九
八二	昭和 四年(一九二九)	一二月一六日	板妻廠舎管内演習廃弾払下出願	二五九
八三	昭和 五年(一九三〇)	一月一〇日	請願書(須山村)	二六〇
八四	昭和 五年(一九三〇)	九月二七日	演習場道路敷設につき紹介の件	二六一
八五	昭和 六年(一九三一)	一月二六日	植樹願書の件	二六一

第五章 十五年戦争と裾野のひとびと

第一節 暮らしの風景

七六	昭和五年(一九三〇)	四月	定期乗合自動車営業願	二六五
七六	昭和五年(一九三〇)	八月	衛生宣伝週間	二六六
七六	昭和五年(一九三〇)	十一月	渥美勝記念碑建碑一周年祭	二六九
七六	昭和五年(一九三〇)	五月	御巡幸記念実行目	二六九
七六	昭和六年(一九三一)	五月	駿東郡小泉村外三ヶ村中駿病院組合規約	二七〇
七六	昭和六年(一九三一)	七月	中駿病院の敷地 漸く泉村へ決定	二七一
七六	昭和八年(一九三三)	四月	全国一斉交通調査成績書	二七三
七六	昭和八年(一九三三)	五月	三百余戸の人々 飲料水に苦しむ	二七三
七六	昭和八年(一九三三)	八月	盛況を極めた深良村の通水式	二七三
七六	昭和八年(一九三三)	一月	急行貨車 裾野駅構内で脱線転覆	二七四
七六	昭和九年(一九三四)	五月	大字別戸数人口生活程度調査に関する件	二七六
七六	昭和一一年(一九三六)	二月	小泉村佐野第二区生活改善規約	二七七
七六	昭和一二年(一九三七)	一月	郷土芸術研究会 観劇案内	二八〇
七六	昭和一二年(一九三七)	四月	小泉村出動軍人家族後援会規約	二八二

〇〇	昭和二年(一九三七)	九月 八日	急告・灯火管制の実施	二六三
〇一	昭和二年(一九三七)	十一月 八日	出征軍馬慰問に関する件	二六四
〇二	昭和二年(一九三七)	二月一〇日	南京陥落の際提灯行列施行の件	二六五
〇三	昭和二年(一九三八)	二月一九日	政府買上げ綿製品配給依頼の件	二六五
〇四	昭和二年(一九三八)	二月二六日	焼夷弾並に毒瓦斯実験に関する件通知	二六六
〇五	昭和二年(一九三八)	三月二四日	石油規制に関する件	二六七
〇六	昭和二年(一九三八)	八月 九日	時局に関する映画会開催の件	二六七
〇七	昭和二年(一九三八)	八月二九日	第一五回九月一日「酒なし日」挙行に関する件通知	二六八
〇八	昭和二年(一九三八)	九月 六日	鉄鋼工作物築造許可規制に関する件通牒	二六九
〇九	昭和二年(一九三八)	九月 七日	慰問袋募集に関する件	二七〇
一〇	昭和二年(一九三八)	九月二二日	灯火管制実施における街路灯残置計画に関する件	二七一
一一	昭和二年(一九三八)	二月	小泉村生活改善実行規約	二七二
一二	昭和二年(一九三九)	六月 五日	一〇〇億円貯蓄強調週間実施に関する件通知	二七三
一三	昭和二年(一九三九)	六月二六日	金保有状況調査委員会要領	二七四
一四	昭和二年(一九三九)	七月 五日	支那事変勃発二周年記念実施に関する件通知	二七五
一五	昭和二年(一九三九)	二月一四日	門松締飾及虚礼的贈答等廃止の件	二七六
一六	昭和二年(一九三九)	二月一九日	電気の儉約に関する件	二七七

△七	昭和十五年(一九四〇)	二月 八日	紀元二六〇〇年祭奉祝に関する件	二九
△八	昭和十五年(一九四〇)	四月 一日	映画会開催に関する件通知	三〇
△九	昭和十五年(一九四〇)	六月 一日	砂糖配給と歓送迎時の旗幟使用廃止の件	三〇
△〇	昭和十五年(一九四〇)	八月 一日	戦地の兵隊への村の現況報告	三〇
△一	昭和十五年(一九四〇)	九月二〇日	富岡村国民健康保険組合の設立について	三〇
△二	昭和十五年(一九四〇)	一〇月二六日	防空用防毒具購入方に関する件	三〇
△三	昭和十五年(一九四〇)	一〇月	米穀配給に関する基礎調査の件御依頼	三〇
△四	昭和十六年(一九四一)	三月二六日	三月度諸配給に関する件	三一
△五	昭和十六年(一九四一)		「全国民は防諜の戦士となれ」	三一
△六	昭和十七年(一九四二)	二月 八日	戦捷祝賀実施要項	三一
△七	昭和十七年(一九四二)	二月一八日	二分砂糖配給の件	三一
△八	昭和十七年(一九四二)	三月 七日	ラジオ欄	三一
△九	昭和十七年(一九四二)	六月	大東亜戦争下富岡村健康保健組合の設立について	三一
△〇	昭和十七年(一九四二)	九月二四日	農村に文化協会 健全娯楽の普及	三一
△一	昭和十七年(一九四二)		癩療養所設置反対理由(深良村岩波区)	三一
△二	昭和十八年(一九四三)	五月一六日	南方戦線へ・県出身勇士を訪ねて	三一
△三	昭和十八年(一九四三)	七月二七日	杉浦市郎一座を招いた警防思想普及の観劇	三一

八四	昭和一九年(一九四四)	一〇月一日	“白い手”を葬れ 岳麓から有閑乙女消える	三九
八三	昭和一九〇二年(一九四四)～一九四五)		敵機来襲の記(抄)	三〇
第二節 昭和恐慌から地域戦時経済へ				
(1) 昭和恐慌と裾野の経済				
① 昭和恐慌の波及				
八二	昭和 六年(一九三一)	二月二六日	昭和恐慌の浸透―昭和五年須山村事務報告より	三三
八一	昭和 六年(一九三一)	二月二六日	昭和恐慌の浸透―昭和五年富岡村事務報告より	三四
八〇	昭和 六年(一九三一)	二月	昭和恐慌の浸透―昭和五年小泉村事務報告より	三五
七九	昭和 五年(一九三〇)	五月二一日	春繭、十数年来の安値	三五
七八	昭和 九年(一九三四)	五月二七日	裾野繭市場の存続を陳情	三六
② おまけのまな対策				
八四	昭和 六年(一九三一)	二月二七日	静岡県農山漁村失業救済資金借入の件	三六
八三	昭和 六年(一九三一)	七月二一日	失業救済資金の起債許可申請	三九
八二	昭和 七年(一九三二)	八月 四日	農漁村地方生活情況調査	三〇
八一	昭和 七年(一九三二)	八月二二日	農村振興土木事業	三一
八〇	昭和 七年(一九三二)	一月 八日	部落請負の推進決議	三三
七九	昭和 七年(一九三二)	三月二八日	深良村納税奨励規程	三三

八〇	昭和八年(一九三三)	五月一六日	模範納税組合調書	三三〇
八〇	昭和八年(一九三三)	九月四日	泉村経済更生委員会規程	三三六
八〇	昭和八年(一九三三)	二月一四日	泉村負債整理委員会の設置	三三八
八〇	昭和九年(一九三四)	八月二九日	泉村負債整理事業資金起債理由	三四〇
八一	年月日不詳		今里負債整理組合設立の理由	三四一
八一	昭和一〇年(一九三五)	二月二五日	戸数割等級引下げ歎願書	三四三
八一	昭和一〇年(一九三五)	二月二四日	吏員、教員の俸給、給料支払延滞未払調べ	三四三
③景気回復				
八二	昭和一一年(一九三六)	二月二九日	景気好転—昭和一〇年泉村事務報告より	三四四
八二	昭和一二年(一九三七)	二月二六日	景気好転—昭和一一年富岡村事務報告より	三四五
八二	昭和一二年(一九三七)	二月二七日	景気好転—昭和一一年小泉村事務報告より	三四五
(2)小作争議と自作農創設政策				
①小作争議				
八三	昭和六年(一九三一)	二月二一日	小泉村の小作人十数名引致さる	三四六
八三	昭和六年(一九三一)	二月二二日	不当検束を糺弾	三四七
八三	昭和六年(一九三一)	二月二四日	百余名沼津署へ殺到	三四七
八三	昭和六年(一九三一)	二月二六日	小作争議に検事局が乗出す	三四八

八二	昭和 六年(一九三一)	二月二七日	七名留置さる	三三八
八三	昭和 六年(一九三一)	二月二八日	一〇名起訴	三三八
八四	昭和 六年(一九三一)	三月一日	山崎劍二釈放さる	三三九
八五	昭和 六年(一九三一)	三月七日	全農県連、收容者の家庭を援助	三三九
八六	昭和 六年(一九三一)	三月七日	富士土地研究会、地主・小作人協調を訴える	三四九
八七	昭和 六年(一九三一)	三月三一日	小作争議の公判大賑い	三五
八八	昭和 六年(一九三一)	四月一日	小作争議の關係者保釈	三五
八九	昭和 六年(一九三一)	四月一〇日	小作争議事件求刑	三五
九〇	昭和 六年(一九三一)	四月二四日	小作争議事件判決	三五
九一	昭和 六年(一九三一)	七月二三日	控訴審 二名体刑、八名罰金	三五
九二	昭和 九年(一九三四)	一月二一日	駿東郡下、小作争議の形勢	三五

②自作農創設維持事業

八三	昭和一〇年(一九三五)	六月一九日	小泉村自作農創設維持事業計画	三五
八四	昭和 九年(一九三四)	二月一四日	小泉村自作農創設維持資金貸付規程	三五
八五	昭和一八年(一九四三)	二月二二日	小泉村自作農創設維持奨励に関する件	三五

(3)地域経済の戦時編成

①統制経済の強化

八五	昭和一四年(一九三九)	二月二八日	日中戦争下の戦時経済体制—昭和一三年泉村事務報告より	三五
八六	昭和一五年(一九四〇)	二月二八日	統制経済の強化—昭和一四年泉村事務報告より	三五
八七	昭和一六年(一九四一)	二月二七日	統制経済の強化—昭和一五年泉村事務報告より	三六
八八	昭和一七年(一九四二)	二月二七日	統制経済の強化—昭和一六年泉村事務報告より	三六
②戦時下の経済生活				
八九	昭和一〇年(一九三五)	九月七日	箱根竹、篤竹の自然枯死	三三
九〇	昭和一二年(一九三七)	九月二九日	日中戦争応召農山漁家の生活安定について	三六
九一	昭和一二年(一九三七)	一〇月二日	村税の滞納ある方に告ぐ	三七
九二	昭和一三年(一九三八)	二月一〇日	農会費の滞納のある方に	三六
九三	昭和一三年(一九三八)	二月二日	満州農業移民本隊員見送りの件	三九
九四	昭和一四年(一九三九)	二月一四日	製糸女工求人連絡	三〇
九五	昭和一四年(一九三九)	一〇月二日	物価等引上停止に関する注意	三七
九六	昭和一五年(一九四〇)	五月八日	農繁期雇人賃金の件	三七
九七	昭和一六年(一九四一)	一二月一四日	駿東の菓子屋も統合	三七
九八	昭和一七年(一九四二)	一月二日	農業増産推進隊員帰還	三七
九九	昭和一八年(一九四三)	九月七日	立木伐採計画の運用	三七

八五〇	昭和一九年(一九四四)	八月 四日	立木売渡の勸奨	三五四
第三節 「皇国民」教育への道				
(1)不況から戦争への教育				
八四九	昭和 五年(一九三〇)	六月一二日	小学教員や吏員の俸給が払えぬ	三三五
八四八	昭和 五年(一九三〇)	一〇月 一日	佐野実業学校土地賃貸契約	三三五
八四七	昭和 五年(一九三〇)	十一月二六日	天災地変其他学校に影響を及ぼしたる事件	三三六
八四六	昭和 五年(一九三〇)	七月 二日	農家の経済事情変化の為教育方面に及ぼせる影響に関する件	三三七
八四五	昭和 六年(一九三一)	三月一八日	小学校教員寄付問題に関する件	三三七
八四四	昭和 六年(一九三一)		小泉村小学校基本財産蓄積一部停止の件	三三六
八四三	昭和 六年(一九三一)		決議書(小学校震災復旧費)	三三九
八四二	昭和二〇年(一九三五)	二月二八日	小泉尋常小学校に高等科併置の件	三三〇
八四一	昭和二三年(一九三八)		夏休み友 尋常科第六学年	三三〇
八四〇	昭和二四年(一九三九)	一〇月三〇日	生徒児童並団体奉迎送方注意に関する件	三三一
八三九	昭和二四年(一九三九)		岳南小学校へ二宮尊徳建設書類	三三四
八三八	昭和二四年(一九三九)		二宮尊徳像建設基礎工事請負証	三三四
八三七	昭和二五年(一九四〇)	五月二九日	児童県外引率認可稟請	三三五

九四	昭和五年(一九四〇)	八月二九日	教壇から第一線へ若き教員の志願	三六七
九五	昭和五年(一九四〇)	二月一七日	佐野実業学校を移転改築、甲種に昇格をなすの件	三三八
九六	昭和五年(一九四〇)		保護者会(獄南小学校)	三三九
九七	昭和六年(一九四一)		昭和一六年(一九四一)小泉国民学校校務日誌	三五一
九八	昭和六年(一九四一)		昭和一六年度 国民学校施設一覽事変における行事	三五四
九九	昭和八年(一九四三)	一〇月二二日	駿東郡泉村国民学校体錬大会プログラム	三五五
一〇〇	昭和九年(一九四四)	七月三〇日	東京のお友達の机や椅子運搬	三五七
一〇一	昭和九年(一九四四)	二月九日	空襲警報発令につき直ちに児童退校	三五七
一〇二	昭和二〇年(一九四五)	四月	校舎貸付の件	三五八
一〇三	昭和二〇年(一九四五)	七月一七日	沼津の空襲被害に応援に行く	三五九
(2)戦時下の青少年団活動				
九四	昭和六年(一九三一)	四月二九日	富岡村青年団「団誌」より	三五九
九五	昭和七年(一九三二)		赤潮会日誌(抄)	四〇三
九六	昭和八年(一九三三)	九月九日	富岡村青年団の試作地近く表彰	四〇四
九七	昭和一〇年(一九三五)	三月二五日	金品寄附者に対し感謝状贈呈の件	四〇四
九八	昭和十一年(一九三六)	五月五日	映画会のお知らせ	四〇五
九九	昭和十二年(一九三七)	一〇月二七日	反毛報国運動に関するお願い	四〇六

九二〇	昭和十三年(一九三八)	三月 八日	富岡村男女青年団總會および軍事講演会の開催通知	四〇六
九二一	昭和十三年(一九三八)	四月 一三日	満蒙開拓青少年義勇軍渡満日時に関する件	四〇七
九二二	昭和十五年(一九四〇)	一〇月 五日	空間廢地利用報国一坪農業経営について	四〇七
九二三	昭和十六年(一九四一)		田向青年会「会務録」より	四〇八
九二四	昭和十六年(一九四一)	四月 二六日	富岡青少年団の結成	四一〇
九二五	昭和十七年(一九四二)		田向青年会「会務録」より	四一〇
九二六	昭和十八年(一九四三)	七月	少年兵志願義勇軍送出指導者練成講習会要項	四一二
九二七	昭和十八年(一九四三)	二月 一五日	落穂まで拾って供米完納	四二五
九二八	昭和十九年(一九四四)	一〇月 一六日	炊事と育児から解放、農繁期只管増産に挺身さす	四二五
九二九	昭和二十年(一九四五)	七月 七日	北駿学童部隊健闘	四二六

第四節 綴り方教育 Topics V

九三〇	大正十四年(一九二五)	七月 四日	駿東郡教育会教科研究会(状況報告)	四二八
九三一	大正十四年(一九二五)	二月 一四日	授業法研究会開催案内書	四三二
九三二	大正十五年(一九二六)	八月	綴る力はかうして伸びる	四三三
九三三	昭和二年(一九二七)	二月	「私の家の朝」 小泉 鈴木光江	四三四
九三四	昭和二年(一九二七)	六月	作品研究「あめやさん」 須山 白井弘	四三五
九三五	昭和四年(一九二九)	五月	「麦とく」 須山 宮崎恒	四三七

三六	昭和	五年(一九三〇)	三月	「学げいくわい」 須山 芝山きさ	四六
三七	昭和	六年(一九三一)	七月	「午後」 須山 遠藤生	四六
三八	昭和	六年(一九三一)	九月	「アンテナ」 小泉 稲愛子	四九
三九	昭和	七年(一九三二)	三月	「兵隊送り」 深良 小見山嘉一	四〇
四〇	昭和	八年(一九三三)	三月	「文をほどよくきること」	四三
四一	昭和	八年(一九三三)	十一月	「お祭」 岳南 兼井清江	四三
四二	昭和	一〇年(一九三五)	七月	「かぐみ」 岳南 勝又欣一郎	四三
四三	昭和	一一年(一九三六)	三月	泉 タカクサシゲル	四三
四四	昭和	一一年(一九三六)	三月	「みかん」 泉 杉山新吉	四四
四五	昭和	一一年(一九三六)	六月	綴方科教授要目	四四
四六	昭和	一二年(一九三七)	二月	「兄さんの出征」 深良 武井富代	四七
四七	昭和	一三年(一九三八)	九月	「センチノオトツチャンへ」 泉 カヂカツエ	四九
四八	昭和	一四年(一九三九)	一月	「昭和十四年を迎ふ」 鈴木三郎	四九
四九	昭和	一四年(一九三九)	五月	「郷土便り(戦地の兵隊さんへ)」 須山 土屋節子	四〇
五〇	昭和	一四年(一九三九)	七月	「慰問文のねらひ」 土屋生	四一
五一	昭和	一五年(一九四〇)	一月	「いなご」 岳南 西島たけ	四二
五二	昭和	一五年(一九四〇)	二月	「もろこし取り」 須山 渡邊好昭	四二

九三三	昭和一六年(一九四一)	六月	綴方教室「兄の門出」 深良 長田一江	四四
第五節 戦争と寺社				
九三四	大正 七年(一九一八)	一月二四日	村社八幡宮社掌俸給上申	四四六
九三五	大正一三年(一九二四)	三月二九日	定輪寺昇格山林復古略縁起	四四八
九三六	昭和 九年(一九三四)	三月一日	佐野原神社の昇格運動	四五〇
九三七	昭和 七年(一九三二)	一〇月一五日	泉村浅間神社新造営成る	四五〇
九三八	昭和一一年(一九三六)	一〇月 八日	新嘗祭当日、感謝祭施行案	四五二
九三九	昭和一二年(一九三七)	八月一五日	出征兵神前告別式並に出発通知	四五二
九四〇	昭和一二年(一九三七)	一〇月一四日	支那事変に関する神社奉告祭	四五三
九四一	昭和一三年(一九三八)	四月二四日	靖国神社臨時大祭に際し、全国民黙禱	四五三
九四二	昭和一四年(一九三九)	九月一五日	静岡県護国神社寄附金割当	四五四
九四三	昭和一六年(一九四一)	三月 八日	寺院、教会等退蔵金属品献納運動	四五五
九四四	昭和二〇年(一九四五)	五月二一日	寇敵撃攘の祈願並に臨時祭について通牒	四五五
九四五	昭和二一年(一九四六)	九月 五日	神社の奉納金祭典費等について	四五六
九四六	昭和四六年(一九七一)	三月	八幡神社改築改修費寄附依頼、趣意書	四五九
第六節 地域にとつての翼賛体制				
(1)戦争にむかう地域政治				

三六	昭和八年(一九三三)	一月 八日	四ヶ村を合併して町制施行準備	四六
三六	昭和一〇年(一九三五)	一月 五日	葛山区初集会決議事項	四六
三六	昭和一〇年(一九三五)	六月二六日	泉村平松区の戸数割騒動	四六
三七	昭和一一年(一九三六)	一〇月 八日	泉村振興委員会規程・名簿・趣意書	四六
三七	年月日不詳		小泉村選挙粛正委員会協議事項	四六
三七	昭和一一年(一九三六)		選挙粛正運動についての葛山区長の謹告	四七
三七	年月日不詳		小泉村国民精神総動員実践事項要領	四七
三七	昭和一〇年(一九三五)	一月一日	佐野第一・二区問題	四七
三七	昭和一〇年(一九三五)	二月	佐野区長選任についての意見	四七
(2)地域にわたるの翼賛体制				
三六	昭和一六年(一九四一)	一月三一日	泉村常会規程	四七
三六	昭和一六年(一九四一)	二月二七日	昭和一六年度予算概要	四七
三六	昭和一六年(一九四一)	七月 一日	大政翼賛会小泉支部常会決定実践事項	四八
三六	昭和一六年(一九四一)	七月一九日	共同精神昂揚の告文	四八
三六	昭和一七年(一九四二)	一月 七日	翼賛青壮年団員の推薦について	四八
三六	昭和一七年(一九四二)	五月 八日	富岡村の翼賛選挙―模範村か難治村かの岐路	四八
三六	昭和一八年(一九四三)	三月一六日	各種団体長聯合協議会決議	四八

九八三	昭和一八年(一九四三)	三月二八日	富岡村翼賛壮年団の「改革案実施事項」	四八八
九八四	昭和一八年(一九四三)	四月一九日	主婦常会の実施	四八九
九八五	昭和一九年(一九四四)	一月二七日	深良村参与条例の設定	四九〇
九八六	昭和一九年(一九四四)	七月三十一日	戦時災害に因る村税の減免納税延期等に関する条例	四九一
九八七	昭和二四年(一九三九)	一月六日	葛山区役員選出について田場沢最寄の抗議決議文	四九三
九八八	昭和一六年(一九四一)		田場沢最寄、昭和一六年度会議記録	四九三
九八九	昭和一八年(一九四三)		昭和一八年度田場沢最寄の議決事項(抄)	四九四
九九〇	昭和二〇年(一九四五)	八月二三日	敗戦時の在郷軍人会	四九五
第七節 村と戦争				
九八一	昭和七年(一九三二)	九月三〇日	愛国美談に関する件	四九七
九九二	昭和九年(一九三四)	六月一〇日	演習場関係契約書(富岡村)	四九七
九九三	昭和一一年(一九三六)	五月三日	月謝だけ納め学籍を継ぎ、徴兵忌避を図る	四九九
九九四	昭和一二年(一九三七)	七月二九日	出征兵士見送方法其の他に關する件	五〇〇
九九五	昭和一二年(一九三七)	八月	戦地からの手紙	五〇一
九九六	昭和一二年(一九三七)	一〇月二六日	病気の父と危篤の子を妻に托し勇躍出発	五〇五
九九七	昭和一二年(一九三七)	一二月二日	小泉村村葬について	五〇六
九九八	昭和一二年(一九三七)	一二月九日	見知らぬ女性に贈られた日章旗	五〇三

九九	昭和一七年(一九四二)	九月一〇日	昭和一八年海軍志願兵割当数に関する件	五三
一〇〇	昭和一八年(一九四三)	一月	入営延期届	五四
一〇一	昭和一九年(一九四四)	八月一五日	日婦国防錬成会	五四
一〇二	昭和二〇年(一九四五)	三月 九日	駿東の松根供出	五五
一〇三	昭和二〇年(一九四五)	八月 七日	特攻隊故勝又富作像建立の件	五五

第六章 占領のなかの民主化

第一節 暮らしの風景

一〇四	昭和二〇年(一九四五)	一月二日	御殿場線改正時刻表	五九
一〇五	昭和二〇年(一九四五)	一月一八日	駿東沼津地方食糧難は必至	五〇
一〇六	昭和二一年(一九四六)	一月三一日	民間武器提出依頼の件	五〇
一〇七	昭和二一年(一九四六)	二月 九日	隠退蔵物資の申告について警察よりの御願い	五二
一〇八	昭和二一年(一九四六)	三月 一日	武器領収書	五二
一〇九	昭和二一年(一九四六)	三月 七日	隠退蔵物資調査に関する件	五三
一一〇	昭和二一年(一九四六)	五月一五日	外地引揚者持帰品調査に関する件	五三
一一一	昭和二一年(一九四六)	八月 一日	回覧(御宿区)	五五
一一二	昭和二一年(一九四六)	八月 六日	公定価格に関する件	五六

1013	昭和二年(一九四六)	九月二〇日	小泉村銃後奉公会、小泉村援護会と改称	五六
1014	昭和二年(一九四六)	九月二一日	回覧(御宿区)	五七
1015	昭和二年(一九四六)	二月一〇日	生活相談所開設に関するお知らせ	五八
1016	昭和二年(一九四六)	二月二四日	静岡県外地引揚者互助会泉村分会規約	五九
1017	昭和二年(一九四六)		掠奪品の届出の件	五三
1018	昭和二年(一九四七)	八月二日	豪勢な富士登山客	五三
1019	昭和二年(一九四七)	八月一六日	今年の特徴、伝染病集団発生	五三
1020	昭和二年(一九四七)		昭和二一年駿東郡小泉村外三ヶ村中駿病院組合事務報告	五四
1021	昭和四年(一九四九)	三月四日	泉村に六人組強盗	五五
1022	昭和四年(一九四九)		富岡村直営診療所建築関係調書	五六
1023	昭和五年(一九五〇)	二月一八日	主要食糧配給に関する件	五六
1024	昭和五年(一九五〇)	三月	昭和二四年度刑法並経済犯罪統計	五七
1025	昭和五年(一九五〇)	七月二六日	パンの配給についてのお知らせ	五八
1026	昭和五年(一九五〇)	八月三〇日	性病予防週間の無料相談	五九
1027	昭和五年(一九五〇)	一〇月二四日	防犯映画の開催お知らせ	五九
1028	昭和五年(一九五〇)	十一月	駿東郡小泉村外四ヶ村中駿病院組合規約	五九

1039	昭和二七年(一九五二)	四月二九日	三〇年ぶりの裾野町の大火	……………	五四
1040	年 不 詳		沿革誌(消防関係)	……………	五五
第二節 農地改革と地域経済の民主化					
1041	昭和二一年(一九四六)	七月二五日	泉村における土地取りあげ	……………	五九
1042	昭和二一年(一九四六)	一月	第一回農地委員選挙のチラシ	……………	五〇
1043	昭和二一年(一九四六)	一月二一日	林道工事請負契約書写	……………	五四
1044	昭和二三年(一九四八)	三月二三日	甘藷供出未完納につき督促通知	……………	五五
1045	昭和二三(二四年)一九四八(一九四九)		泉村有地解放についてマッカーサー等宛書簡	……………	五六
1046	昭和二四年(一九四九)		愛鷹山組合解散に伴う水窪の要望書控	……………	六一
1047	昭和二四年(一九四九)	四月	富岡村農業協同組合役員改選についての資料	……………	六一
1048	昭和二五年(一九五〇)	四月一九日	供出完遂農家に対する煙草の特配について	……………	六四
1049	昭和二五年(一九五〇)	五月 一日	愛鷹山組合解散に伴う富岡村長と葛山区との契約書	……………	六六
1050	昭和二五年(一九五〇)	八月 一日	富岡村農地等開放実績調査(抄)	……………	六七
1051	昭和二六年(一九五一)	九月二五日	今里の御料地払下げ請願写	……………	六七
1052	昭和二六年(一九五一)	九月二八日	富岡村が“モデル村”に指定	……………	六九
1053	昭和二七年(一九五二)	三月二八日	富岡村が供米模範村として表彰	……………	七〇
1054	昭和二八年(一九五三)		富岡村農地事情調査報告書	……………	七一

第三節 戦後教育の出発

(1)新教育へ向けて

一〇四	昭和二〇年(一九四五)	九月一日	疎開児童 前在学校へ復帰	五八
一〇四	昭和二〇年(一九四五)	九月二七日	終戦に伴ふ教科用図書取扱に関する件	五八
一〇七	昭和二〇年(一九四五)	一月四日	時局の急転に伴ふ学校教育に関する件	五九
一〇八	昭和二一年(一九四六)	一月四日	御真影奉還に関する件	六〇
一〇九	昭和二一年(一九四六)	一月二二日	国家神道神社神道に対する政府の保証支援保全及監督並弘布の禁止に関する件	六〇
一一〇	昭和二一年(一九四六)	一月二五日	三島進駐軍 <small>沼津市 駿東郡</small> 所在の各学校検閲に関する件	六一
一一一	昭和二一年(一九四六)	二月二七日	教職員の窮乏の応急的処理についての御願い	六一
一一三	昭和二一年(一九四六)	五月六日	昭和二一年度桑皮増産に関する件	六一
一一三	昭和二一年(一九四六)	五月二二日	鳩麦の栽培を国民学校及び青年学校に依頼	六一
一一四	昭和二一年(一九四六)	九月二〇日	奉安殿処理の件	六一
一一五	昭和二一年(一九四六)		終戦後の教育の実情に関し指導上参考となるべき事項教育計画	六一
一一六	昭和二一年(一九四六)		追放者歎願の件	六一
一一七	昭和二二年(一九四七)	一月二一日	新制中学の悩み 旧軍用施設を利用	六一

一〇五八	昭和二年(一九四七)	一月二一日	教員ストの悩み	六〇九
一〇五九	昭和二年(一九四七)	六月一三日	学校に於ける宮城遙拝等について	六〇〇
一〇六〇	昭和三年(一九四八)		新制中学校建築に関する件	六一一
一〇六一	昭和三年(一九四八)	一月七日	佐野実業補習学校の県立移管	六一二
一〇六二	昭和三年(一九四八)	五月二九日	昭和二三年当直日誌より	六一三
一〇六三	昭和三年(一九四八)		昭和二三年年度 深良中学校年次計画	六一三
一〇六四	昭和二六年(一九五一)	三月三一日	深良村奨学資金支給に関する条件	六一六
(2)社会教育の展開と文化活動				
一〇六五	昭和二年(一九四六)	一月一日	婦人連盟創設に関する件	六一七
一〇六六	昭和二年(一九四六)	一月五日	体育指導員設置に関する件	六一七
一〇六七	昭和二年(一九四七)	一月八日	公民館建築許可申請書	六一九
一〇六八	昭和二年(一九四七)	三月二〇日	新憲法精神と家庭生活講演会並演芸実施について	六一九
一〇六九	昭和二年(一九四七)	八月一三日	嶽南学生会会声明書及び会則	六二九
一〇七〇	昭和二年(一九四七)	一月一五日	裾野学生会会報第一号より	六三三
一〇七一	昭和二年(一九四七)	二月一五日	裾野学生会会報第二号より	六三三
一〇七二	昭和二年(一九四七)		睦進会々則	六三五
一〇七三	昭和三年(一九四八)	六月二四日	地区別社会教育委員協議会について	六三六

1066	昭和二七年(一九五二)	一月一七日	富士裾野演習地関係町村教育問題協議会開催について	六六
1065	昭和二七年(一九五二)	一月二七日	子供クラブ運営協議会開催について	六六
1064	昭和二七年(一九五二)	九月 八日	ナトコ映画フィルムの自由貸出について	六三〇
1067	年月日不詳		母親学級実施原案	六三三
<p>第四節 戦後改革期の裾野の政治</p>				
1076	昭和二二年(一九四六)	一月一四日	衆議院議員選挙人名簿縦覧に関する件	六四
1075	昭和二六年(一九五一)	三月三一日	泉村公安委員長・兼井□臣「選挙に当りての私観」	六五
1080	昭和二〇年(一九四五)	九月一一日	昭和二一年度地方予算編成方針に関する件依命通牒	六五
1081	昭和二二年(一九四六)	一月二三日	経済道義昂揚運動実施に関する件依頼	六六
1082	昭和二二年(一九四六)	七月	小泉村警防団第四分団の組織を二本松青年団が引継ぐ 上申書	六九
1083	昭和二三年(一九四八)	一〇月 一日	深良村貯蓄組規約	六〇
1084	昭和二二年(一九四六)	二月 八日	戦時中貯蓄奨励国債消化等の宣伝に用ひたる広告類撤 去に関する件	六一
1085	昭和二二年(一九四六)	一〇月一〇日	日本国旗の掲揚に関する件	六一
1086	昭和二四年(一九四九)	五月 二日	北朝鮮政府旗(朝鮮民主主義人民共和国国旗)の掲揚 について	六三

一〇七	昭和二五年(一九五〇)	二月 一日	御通知・「中国」を「支那」と呼ぶことへの注意	六四三
一〇八	昭和二六年(一九五一)	七月 五日	自治体警察の存廃をめぐる住民投票	六四三
一〇九	昭和二六年(一九五一)	七月一七日	追放解除のお祝いの会	六四三
一〇九	昭和二二年(一九四七)	三月三一日	部落会・町内会廃止に際して佐野第二区長の口上	六四六
一〇九	昭和二二年(一九四七)	四月一六日	主要食糧の配給隣組制度との関係に関する件	六四七
一〇九	昭和二二年(一九四七)	五月二〇日	占領期の村会議員・区長会	六四八
一〇九	昭和二四年(一九四九)	九月一〇日	村民税決定協議会議事録(抄)	六五〇
一〇四	昭和二一年(一九四六)		占領期の御宿区内「回覧」	六五二
一〇五	昭和二一・二三年(一九四六・一九四八)		昭和二一年泉村・小泉村の事務報告書より	六五四
一〇六	昭和二七年(一九五二)	一月	泉・小泉両村合併の必要性和利害得失	六五五

第五節 村と戦争Ⅱ 占領と裾野

(1) 米軍の進駐と演習場

一〇七	昭和二一年(一九四六)	九月 九日	進駐軍の交通事故の報告方の件	六六〇
一〇六	昭和二二年(一九四七)	六月一八日	米軍実弾射撃実施についての注意方	六六一
一〇九	昭和二四年(一九四九)	九月 一日	米軍演習地草刈場の草刈の件について	六六二
一〇〇	昭和二五年(一九五〇)	五月二〇日	東富士裾野演習場立入禁止について	六六三

(2) 演習場問題をめぐる運動の展開

二〇一	昭和二〇年(一九四五)	九月	元陸軍所管国有地縁顧払下申請書	………	六六四
二〇二	昭和二〇年(一九四五)	九月三〇日	富士裾野御料地内原野払下願	………	六六五
二〇三	昭和二一年(一九四六)		元富士裾野演習場内居住者立退き命令に関する嘆願書	………	六六六
二〇四	昭和二一年(一九四六)	二月 九日	進駐軍大野原演習場再使用の運動者への御礼	………	六六七
二〇五	昭和二一年(一九四六)	一月 八日	泉・小泉村の元陸軍演習場使用願	………	六六八
二〇六	昭和二二年(一九四七)	六月二〇日	歎願書	………	六七〇
二〇七	昭和二七年(一九五二)	一月一九日	村落標識塔(仮名)設置歎願書	………	六七二
二〇八	昭和二七年(一九五二)	五月一九日	富士裾野演習場拡張に関する陳情書	………	六七三
二〇九	昭和二七年(一九五二)	九月 九日	演習場内(上)水道施設の損壊に関する損害補償方陳情	………	六七四

第七章 戦後復興から高度経済成長へ

第一節 暮らしの風景

二一〇	昭和二三(一九四八)～一九七〇)		中駿病院組合管内伝染病発生状況表(Ⅰ)(Ⅱ)	………	六七九
二一一	昭和二七年(一九五二)	七月 二日	村の国民保険について	………	六八一
二一二	昭和二九年(一九五四)	一月 八日	一三〇〇戸に給水 裾野町の水道通水	………	六八一
二一三	昭和二九年(一九五四)	八月 八日	須山口登山道復活へ	………	六八二
二一四	昭和二九年(一九五四)	一月	水道布設の記	………	六八三

二二五	昭和三〇年(一九五五)	六月一五日	昭和三〇年度簡易水道事業実施に関する補助金交付方	六八五
			陳情の件	六八五
二二六	昭和三〇年(一九五五)	八月一日	裾野町国民健康保険発足	六八七
二二七	昭和三〇年(一九五五)	九月	沼津行バス運転要望書	六八八
二二八	昭和三〇年(一九五五)	一〇月一五日	昭和三〇年度富岡村体育祭プログラム	六九〇
二二九	昭和三一年(一九五六)	一月一日	富岡村今里区生活改善実行会規約	六九一
二三〇	昭和三一年(一九五六)	六月二三日	洪水被害	六九三
二三一	昭和三一年(一九五六)	六月二四日	大洪水	六九三
二三二	昭和三四年(一九五九)	三月一日	公営住宅二本松団地入居者募集	六九四
二三三	昭和三四年(一九五九)	八月	御殿場線電化並復線施設申請願書	六九五
二三四	昭和三五年(一九六〇)	一〇月二六日	東富士・「人間の条件」ロケ開始	六九七
二三五	昭和三五年(一九六〇)		私たち市町村の交通事故	六九七
二三六	昭和三七年(一九六二)	六月二四日	富士演習場の映画ロケ 米軍再び脚本検閲	六九八
二三七	昭和三九年(一九六四)	七月	交通信号機設置に関する陳情書	七〇〇
二三八	昭和四二年(一九六七)	五月二四日	し尿処理場設置候補地に関する陳情(伊豆島田)	七〇二
二三九	昭和四二年(一九六七)	七月 八日	三町し尿処理施設設置促進経過報告	七〇二
二四〇	昭和四二年(一九六七)		香典返し廃止について	七〇七

二三	昭和四三年(一九六八)	二月一四日	裾野・長泉両町共同衛生プラント用地買収に成功	七六
二三	昭和四三年(一九六八)	六月九日	サヨナラ蒸気機関車	七九
二三	昭和四三年(一九六八)	六月二一日	異常妊婦が多い	七九
二四	昭和四四年(一九六九)	二月二〇日	裾野町の人口、県下一の増加率	七〇
二五	昭和四四年(一九六九)	五月九日	団地夫人の融和にバレー	七〇
二六	昭和四四年(一九六九)	九月一九日	交通事故死者発生率県下第一位	七一
二七	昭和四四年(一九六九)	一〇月七日	交通安全町民総決起大会	七二
二八	昭和四四年(一九六九)		昭和四四年度ごみ処理施設整備事業計画書(抄)	七六
二九	昭和四五年(一九七〇)	二月二五日	長泉へやっと起工―裾野との共同し尿処理場	七九
三〇	昭和四五年(一九七〇)	二月二六日	便利な公衆電話	七〇
三一	昭和四五年(一九七〇)	三月二〇日	協調的になった社宅主婦	七〇
三二	昭和四五年(一九七〇)	九月一九日	工場悪臭に悩む町民	七二
三三	昭和四五年(一九七〇)	一〇月二二日	美容師の請願	七三
三四	昭和四五年(一九七〇)	一月二〇日	美容教室はやめる	七四
三五	昭和四五年(一九七〇)	二月一九日	一学童の訴えで開けゆく裾野がNHKテレビに	七五
三六	昭和四六年(一九七一)	二月二三日	裾野ゴミ処理場完成	七六
三七	昭和四六年(一九七一)	六月一二日	早くも炉の増設必要―裾野のゴミ焼却場	七六

二四	昭和四六年(一九七一)	八月 五日	良心風呂屋さんついに廃業	七七
二四	昭和四六年(一九七一)	九月二二日	ゴミ収集の無料化	七六
二五	昭和五四年(一九七九)	三月 三日	「富士自然動物公園の強行工事の中止を求める裾野市議会の決議」を求める請願	七九
第二節 工場誘致と企業の進出 Topics VI				
二五	昭和三五年(一九六〇)	一月	矢崎電線工場誘致に関する契約書	七三
二五	昭和三五年(一九六〇)	三月一八日	裾野町工場設置奨励条例	七三
二五	昭和三六年(一九六一)	六月二二日	三菱金属鋳業工場建設契約調印	七三
二五	昭和三七年(一九六二)	九月一七日	三菱アルミ工場誘致契約の議決	七四
二五	昭和三七年(一九六二)	一〇月一五日	トヨタ工場誘致についての覚書	七六
二五	昭和三八年(一九六三)	八月三〇日	トヨタ誘致に関し富岡地区要望書	七九
二五	昭和三八年(一九六三)		トヨタ誘致期成協議会規約	七〇
二五	昭和三九年(一九六四)	一月一八日	土地売渡し権限委任につき誓約書	七三
二五	昭和四〇年(一九六五)		トヨタ自工に対する要望書	七三
二六	昭和三五〇年(一九六〇)～(一九六五)		岳麓新聞にみるトヨタ誘致の経過	七四
二六	昭和四三年(一九六八)	二月一六日	企業の進出と地元商店街	七五
二六	昭和四三年(一九六八)	六月二一日	企業進出に伴う地代、家賃値上げ	七五

二六三	昭和四四年(一九六九)	五月 三日	三菱アルミに公害防止を指示	七五
二六四	昭和四五年(一九七〇)	三月 二六日	裾野町に公営住宅を建設	七五
二六五	昭和四七年(一九七二)	一月二三日	麦塚「公害」調査	七五
第三節 地域経済の展開と社会				
二六六	昭和二七年(一九五二)	一月一三日	昭和二七年度凶作について陳情書	七六
二六七	昭和二八年(一九五三)	一月一六日	須山一―三戸共有誓約書	七六
二六八	昭和二八年(一九五三)	一月 六日	中駿農民総決起大会	七六
二六九	昭和二八年(一九五三)	一月 一日	三年連続供出完遂トップの富岡村	七六
二七〇	昭和二九年(一九五四)	四月一五日	深良村農協昭和二八年度事業報告	七六
二七一	昭和三二年(一九五七)	四月 一日	深良財産区一般入会地入山方法及び制限に関する条例	七〇
二七二	昭和三八年(一九六三)	六月 六日	水窪の新幹線送電線工事反対請願	七二
二七三	昭和三九年(一九六四)	二月 三日	梅平観音競馬場代替地に関する陳情書	七三
二七四	昭和四〇年(一九六五)	一月	中駿農業団地基礎調査書(抄)	七四
二七五	昭和四〇年(一九六五)	一〇月二〇日	東名高速道路地主対策協議会規約	七六
二七六	昭和四〇年(一九六五)		農業経営改善に関する意向調査	七六
二七七	昭和四三年(一九六八)	四月二四日	十里木の山村僻地対策事業	七三
二七八	昭和四五年(一九七〇)	二月 五日	十里木、部落ぐるみの観光開発	七四

二五九 昭和四六年(一九七二) 六月二四日 商工課による買物調査 七六六

二六〇 昭和四六年(一九七二) 八月二二日 箱根女竹の移出 七六七

二六一 昭和四六年(一九七二) 一月七日 裾野ショッピングセンター開店 七七八

二六二 昭和四八年(一九七三) 一月二二日 富士サファリパークの計画 七九〇

第四節 戦後教育の屈折と変容

(1) 社会の変容と学校教育

二六三 昭和二七年(一九五二) 一〇月一七日 元朝鮮師範学校講習科修了者の教員資格について 七九二

二六四 昭和二八年(一九五三) 四月二七日 中国引揚児童生徒の転入学について 七九三

二六五 昭和二九年(一九五四) 一〇月二八日 最近の経済不況に伴う教育問題に対する措置について 七九四

二六六 昭和三一年(一九五六) 農休についての御連絡 七九五

二六七 昭和三二年(一九五七) 三月五日 裾野聖母幼稚園児募集 七九六

二六八 昭和三二年(一九五七) 九月六日 修身教育の復活 七九七

二六九 昭和三三年(一九五八) 六月二四日 勤評に関する校務日誌記事 七九八

二七〇 昭和三四年(一九五九) 六月七日 富岡農繁休校 深良・西中やらぬ 七九九

二七一 昭和三四年(一九五九) 九月二四日 来月から完全給食 七九九

二七二 昭和三五年(一九六〇) 四月一〇日 裾野の五中学が修学旅行 七九九

二七三 昭和三六年(一九六一) 三月三十一日 学校給食婦 身分保障に関する件 八〇〇

二五〇	昭和三七年(一九六二)	五月二三日	駿東教育協の郷土読本	八〇一
二五五	昭和三七年(一九六二)	八月二二日	富岡中が優勝 ソフトボール大会	八〇二
二六〇	昭和三七年(一九六二)	十一月十七日	請願書	八〇三
二七〇	昭和三八年(一九六三)	六月一日	新幹線の列車へ試乗	八〇三
二九〇	昭和三九年(一九六四)	一〇月二四日	オリンピックもいよいよ最終日	八〇四
二九二	昭和四〇年(一九六五)	八月二七日	全教室に親子テレビ	八〇四
三〇〇	昭和四一年(一九六六)	一月二一日	西小の移転本決まり	八〇四
三〇一	昭和四三年(一九六八)	五月二四日	裾野町の小中学校増改築ブーム	八〇五
三〇三	昭和四三年(一九六八)	六月七日	裾野東小、来年度一六教室が完成	八〇六
(2)社会教育の振興と青年団活動				
三〇三	昭和二五年(一九五〇)		富岡村立富岡青年学級々則	八〇七
三〇四	昭和二八年(一九五三)	二月一九日	文部省及び静岡県教育委員会指定青年学級の運営につ いて	八〇九
三〇五	昭和三〇年(一九五五)		富岡青年学級の編成組織図と学習プログラム	八一〇
三〇六	昭和二八年(一九五三)		深良村青年団機関紙「若人」より	八七
三〇七	昭和二七年(一九五二)	七月二一日	深良村立深良保育所設置の件	八三
三〇八	昭和三〇年(一九五五)	三月二八日	富岡村公民館条例	八三

三〇九	昭和三二年(一九五七)	二月	裾野町連合青年団規約	八三三
三〇〇	昭和三三年(一九五八)	八月	裾野町青少年問題対策協議会規約	八三五
三〇一	昭和四一年(一九六六)		家庭の日のしおり	八三七
三〇二	昭和四二年(一九六七)	一二月 一日	図書館の開設にあたりご蔵書をご寄贈ください	八三九
三〇三	昭和四五年(一九七〇)	四月 八日	安心して働けます―乳幼児保育所開園―	八四〇
三〇四	昭和四五年(一九七〇)	六月三〇日	裾野町立総合グラウンド建設を必要とする理由	八四〇
三〇五	昭和四六年(一九七一)	四月二八日	裾野青年団を青年会に改編	八三三
三〇六	昭和四六年(一九七一)	五月三〇日	駿豆学園近く着工へ	八三三
第五節 地域政治・行政と町村合併				
(1) 町村合併の展開				
三〇七	昭和三〇年(一九五五)	一月 三日	裾野町長の町村合併問題についての意見	八三三
三〇八	年月日不詳		合併基本方針及び合併試案「夢のかけはし」深良村・富岡村・須山村	八三七
三〇九	昭和三一年(一九五六)	八月二一日	町村合併に対する所見・富岡村長遠藤佐市郎	八四三
三〇〇	昭和三一年(一九五六)	九月二七日	裾野町合併に伴う協定書	八四七
三〇一	昭和三一年(一九五六)	一〇月	湯山芳太郎・町村合併問題に関する村民大会開催について	八四八

二三三	昭和三十一年(一九五六)	一月 五日	裾野町との合併要望覚書・須山村、富岡村	八五
二三三	昭和三十一年(一九五六)	三月 三日	須山村愛村同志会・村民の皆さんと御誓いいたしましたし よう	八五
二三四	昭和三十一年(一九五七)	三月 二日	富岡村長から県知事あての町村合併に対する請願	八六
二三五	昭和三十一年(一九五七)	七月 二七日	須山村御殿場市合併推進本部の声明書	八七
	(2)高度経済成長期の裾野の政治			
二三六	昭和二十九年(一九五四)	七月 二三日	裾野町勤労同志会による昭和二十九年度住民税軽減につ いての請願	八八
二三七	昭和三十一年(一九五六)	四月	昭和三十一年度貯蓄増強運動方針	八〇
二三六	昭和三十一年(一九五七)	七月 一日	裾野町・新農村建設総合対策事業地域指定希望調書	八三
二三九	昭和三十一年(一九五八)	一〇月 一七日	部落別予算の分取等をやめ、冗費節約、福祉増進につ き請願	八三
二三〇	昭和四十一年(一九六六)		裾野町自治教室開設計画	八三
二三一	昭和四十一年(一九六八)	五月 六日	決議・区内に居住し義務を履行せざる者は権利の主張 ありえない	八三
二三三	昭和四十一年(一九六八)	五月	部落憲章	八三
二三三	昭和四十五年(一九七〇)	九月 二七日	杉本武満「裾野町議選とは青年にとって何か」	八五

第六節 基地問題のゆくえ―村と戦争 Topics VII

二三四	昭和二七年(一九五二)		接收中に蒙った各種損害に対する補償対策	八三
二三五	昭和二八年(一九五三)	七月 一日	生存権侵害の実際問題	八六
二三六	昭和三〇年(一九五五)	七月二〇日	東富士演習場関係資料文書の「はしがき」・「解説」	八八
二三七	年月日不詳		基地農業再建整備に関する計画の基本方針	八五
二三八	昭和三二年(一九五七)	九月一三日	裾野町での自衛隊「市街戦」への声	八六
二三九	昭和三二年(一九五七)	一〇月一六日	キャンプ汚水で操業停止の富岡澱粉工場、補償申請へ	八七
二四〇	昭和三二年(一九五七)	一月 九日	自衛隊誘致の是非についての関係者の意見	八六
二四一	昭和三二年(一九五七)	一月	米軍撤退後の東富士演習場地区接收農民救済に関する 請願	八九
二四二	昭和三三年(一九五八)	二月	東富士演習場須山地区雑産物補償金配分委員会規約	九二
二四三	昭和三三年(一九五八)	二月二二日	東富士対策委員会の要望書	九四
二四四	昭和三三年(一九五八)	八月	南部大野原農民会議連合会規約	九六
二四五	昭和三三年(一九五八)	八月三〇日	雑産物補償料配分についての佐野富岡の紛糾	九八
二四六	昭和三八年(一九六三)	三月	東富士演習場地域農民再建連盟『東富士開発農業協同 組合設立に関する解説書』より	九八
二四七	昭和三九年(一九六四)	一二月 六日	東富士演習場補償金問題に関する申合事項(案)	九二

二四八	昭和四三年(一九六八)	四月 八日	岳麓建設隊・パトロール隊行動要領	………	九三
二四九	昭和四四年(一九六九)	一〇月三〇日	遠藤佐市郎口述・東富士演習場問題の解決について	………	九五
二五〇	昭和三三年(一九五八)	三月二二日	東富士演習場裾野地区対策委員会規約(抄)	………	九三
二五一	昭和四四年(一九六九)	七月	裾野町富士裾野演習場地域自衛隊協力会	………	九三
二五二	昭和四五年(一九七〇)	三月	東富士裾野町入会組合規約(抄)	………	九六
第七節 村の戦後処理と「戦争の記憶」					
二五三	昭和二〇年(一九四五)	一二月一二日	終戦事務協議会々議事項	………	九六
二五四	昭和二一年(一九四六)	五月三一日	皇后陛下御下賜品に関する件	………	九〇
二五五	昭和二一年(一九四六)	八月 五日	戦後の村葬での弔辞	………	九三
二五六	昭和二七年(一九五二)	七月二八日	警察予備隊員の募集について	………	九三
二五七	昭和二七年(一九五二)	一〇月二四日	財団法人静霊奉賛会富岡村支部規約	………	九三
二五八	昭和三三年(一九五八)		裾野町郷友会設立関係資料・結成趣意書・規約草案	………	九四
二五九	昭和三三年(一九五八)	三月	裾野町戦没者忠霊録編さん助成についての陳情	………	九六

口絵目次

- 昭和初期 佐野村と富士(木版色摺)
昭和42年5月 御殿場線(岩波駅のスイッチバック)
昭和42年5月 御殿場線(深良上丹)
裾野駅より市中を望む
昭和16年 林間学校(五竜の滝水泳風景)
大正12年9月 地震被害地図
大正12年9月 汽車転覆
大正12年9月 震災関係書類
大正12年3月 小泉小学校卒業記念写真帖
大正12年4月 種痘
原敬直筆扇
大正15年3月 深良村消防組
タバコ・ケース
SPレコード
旅行カバン
昭和13年 『夏休み友』

学校での教練

昭和18年3月 満蒙開拓青少年義勇軍

昭和11年11月 御眞影奉護日誌

国勢調査書類

大正9年 国勢調査記念章

昭和5年 国勢調査記念「火鉢」

納税袋

金属回収のポスター

「支那事変「国債」

軍人在隊間成績調書綴

昭和14年 出征風景

昭和20年 出征風景

昭和19年 学童疎開(羽田小学校)

平成6年8月 学童疎開記念樹(定輪寺)

昭和28年2月 忠魂碑(深良上原)

昭和22年 農地改革ポスター

昭和23年12月 感謝状

昭和28年 田植えの風景(馬)

昭和30年 竹細工の盛んな頃

昭和29年 パイスケ

昭和34年 農業近代化

昭和29年 遊びから帰る子どもたち

昭和32年 遊ぶ子どもたち

昭和31年 11人の十里木分校

昭和35年 『若人』(裾野町深良青年団機関誌)

昭和34年 裾野駅前の風景

東名高速道路(御宿入谷)

東富士演習場

企業誘致

統計図版目次

図1 裾野市域5ヶ村歳出表

図2 裾野市域5ヶ村人口統計

図3 戦前恐慌期、裾野地域主要産品の価格

図4 一九二九(昭和4)年の小泉村自作割合

図5 戦没地別人数

- 図 6 戦後における保育園・幼稚園及び小中高校の開設
- 図 7 東富士演習場周辺関係図
- 図 8 裾野市の工場